

平成28年度事業報告



学校法人 城星学園

はじめに

学校法人の健全経営とともに充実発展をはかるため、平成28年度においては、理事長の「平成28年度からの学園運営方針(別掲)」に基づいて、各校種が一つになって、学園の建学の精神のもとに教育活動を推進した。特に平成28年11月には大阪星光学院と連携協力確認書を取り交わし、兄妹校として様々な教育活動において連携を深め、同じ創立者の両校がさらに発展していくことを確認した。創立者ドン・ボスコの「こどもを愛するだけでは足りない、こどもが愛されていると感じなければならない」という言葉に代表される教育理念は、現代社会においてますます求められている。その教育理念のもとに、本学園は今後も幼小中高の各教育活動が展開される中で、子どもの成長に合わせて、一貫した教育ができる総合学園としての強みを活かして、教育活動に邁進していく。近年、特に小学校から中学校への内部進学者が減少しているが、大阪星光学院との連携を契機に、様々な教育活動における交流を活かしながら、教育改革、広報活動強化、小中連携強化によって、内部進学者の増加をはかっていく。

また、外部に対する情報公開とともに積極的な自己点検評価・学校評価が求められている。平成28年度においては学園後援会との連携のもと、全保護者あてにアンケートを実施し、貴重なご意見が多数寄せられた。その結果を学園の教育活動に活かしながら、平成28年度学校評価としてまとめた上で情報公開するとともに、平成29年度に向けてさらに充実した評価活動の実施と教育活動のさらなる推進に繋げていきたい。

《平成28年度からの学園運営方針》

1. ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する。
2. 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する。
3. 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する。
4. 校種間、兄妹校間の連携を強化する。
5. 自然に挨拶が交わせる学園にする。

《平成28年度取り組み事例》

- ・大阪星光学院との連携確認書の取り交わし。
- ・各校種の教育活動及び広報活動等（各校種の活動報告参照）
- ・各校種の自己評価及び学校評価（全保護者アンケート）の実施。
- ・中高教育改革の推進
- ・幼稚園未就園児対象の体験広場や預かり保育等による子育て支援の実施
- ・守衛・警備の強化
- ・学園広報活動の充実（各校種の活動報告参照）
- ・JAT（城星学園課外教育活動）プログラムの実施
- ・事業計画の充実に向けた計画書の見直し

次頁より、各校種の教育活動等について報告する。

1. 法人の概要

建学の精神 : 城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命とする。

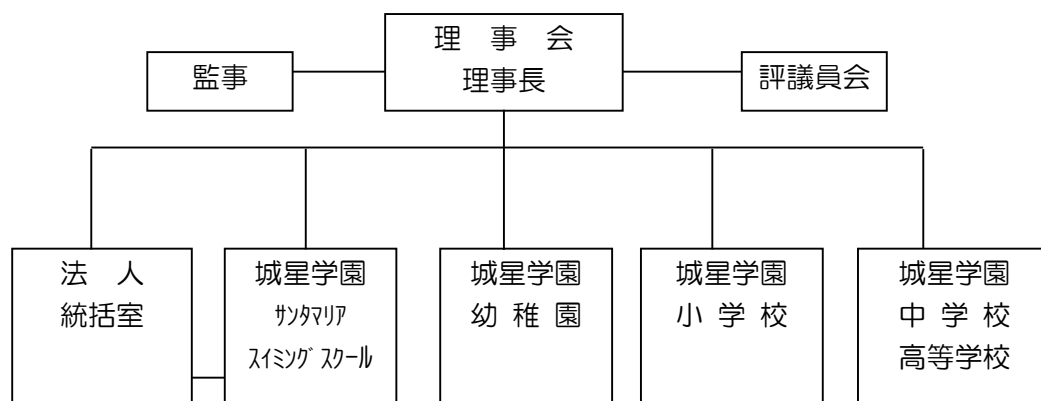
所在地 大阪府大阪市中央区玉造2丁目23番26号

法人成立の年月日 昭和28年3月25日

学校設置認可年月日

幼稚園 昭和28年3月16日
小学校 昭和28年3月16日
中学校 昭和34年2月27日
高等学校 昭和37年1月14日

学校法人 城星学園 組織図 (平成28年4月1日現在)



1) 設置学校及びクラス数

(平成29年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 3クラス: 1年 1クラス

2年 1クラス

3年 1クラス

城星学園高等学校 9クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科) 2年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

3年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(平成28年度)

城星学園幼稚園 9クラス: 3年保育3クラス、2年保育3クラス、1年保育3クラス

城星学園小学校 18クラス: 1年3クラス、2年3クラス、3年3クラス、4年3クラス、5年3クラス、6年3クラス

城星学園中学校 4クラス: 1年 1クラス

2年 1クラス

3年 総合進学コース・特別進学コース1クラス

城星学園高等学校 9クラス: 1年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

(全日制普通科) 2年 総合進学コース2クラス、特別進学コース1クラス

3年 総合進学コース1クラス、特別進学コース1クラス、国際コミュニケーションコース1クラス

2)定員および在籍者数(各5月1日現在)

年 度	幼稚園 (定員 280)		小学校 (定員 600)		中学校 (定員 180)		高等学校 (定員 450)		計	増減 (対前年度)
	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	クラス	現員	現員	
平成 29	9	285	18	592	3	59	9	222	1,158	+ 33
平成 28	9	278	18	571	4	53	9	223	1,125	△ 4

3)役員等・教職員

役 員 等:

年 度	理事	監事	評議員
平成 29	8 人	3 人	1 8 人
平成 28	7 人	2 人	1 7 人

教職員： (5月1日現在) (人)

年度	幼稚園			小学校			中学校			高等学校			法人統括室			SS			計
	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	非常勤	専任	常勤	その他	
平成29	13	3	6	25	6	3	4	2	1	18	8	12	10	3	2	1	4	18	139
	計 22			計 34			計 7			計 38			計 15			計 23			
平成28	15	2	4	24	9	2	4	3	1	17	7	12	9	3	3	2	4	19	140
	計 21			計 35			計 8			計 36			計 15			計 25			

4) 役員会の開催

① 理事会・評議員会

理事会： 平成28年 5月
 平成28年 8月
 平成28年11月
 平成29年 3月

評議員会： 平成28年 5月
 平成29年 3月

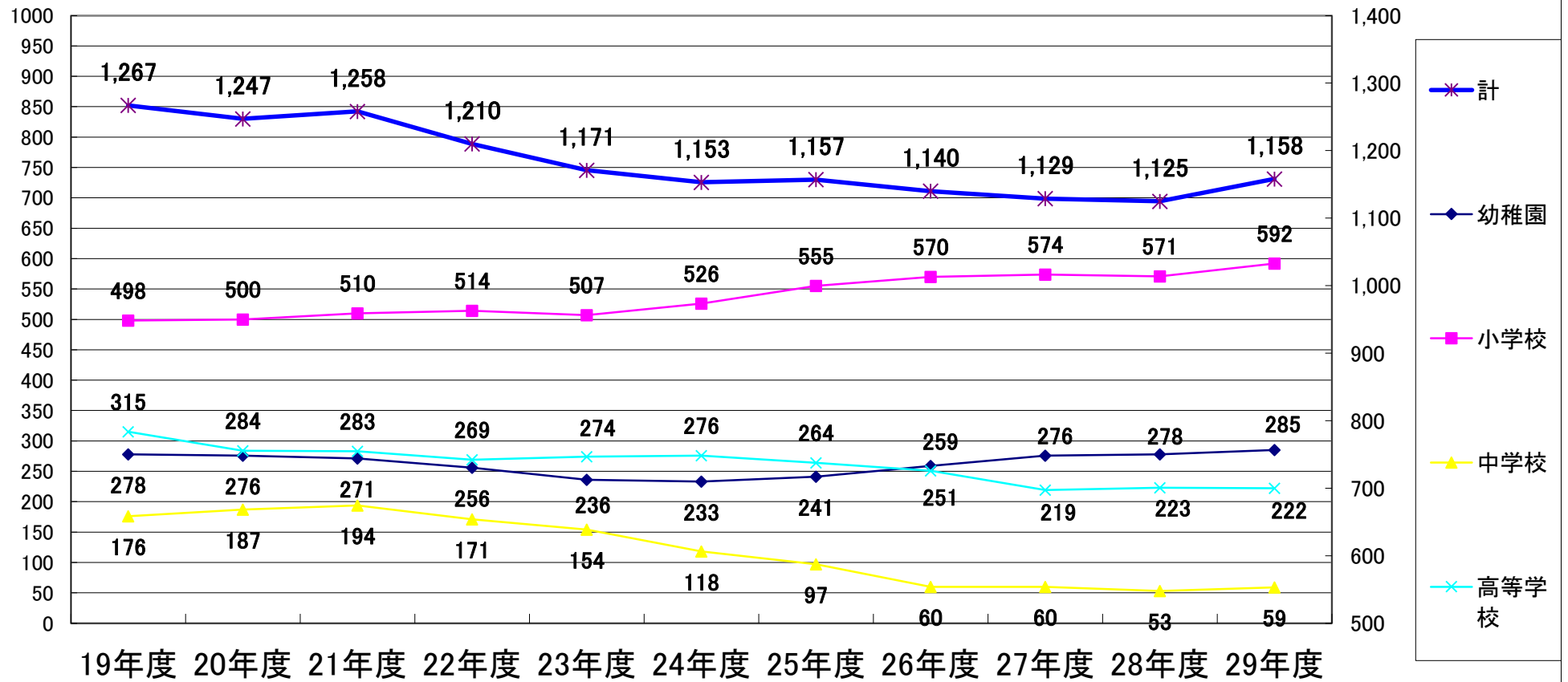
② 監査： 平成28年 5月

1) 募集計画及び教育計画等

()は内部進学者数。 ※別途入園者含む。

年度	区 分	幼稚園			小学校	中学校	高等学校
		3年保育	2年保育	1年保育			
平成 30	新入生募集人員	90	若干名	若干名	約100	50	80
平成 29	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	149	8	2	154	26	93
	受験者数	149	8	2	149	26	93
	合格者数	107	5	0	135	26	93
	入学者数	96	5	0	104(28)	24(2)	71(18)
平成 28	新入生募集人員	80	20	若干名	100	40	75
	志願者数	136	6	0	155	19	120
	合格者数	106	6	0	149	19	120
	入学者数	93	5	0	99(29)	16(6)	86(20)

生徒数推移



学校法人城星学園 中期行動計画-2016年度のふりかえり

建学の精神	城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ(ドン・ボスコ)の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。
教育理念	「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

【中期方針及び2016年度部門別行動計画】

中期方針	校種	当初計画			最終評価
		中期行動計画	2016年度行動目標	ねらい (評価のポイント)	
1.カトリック学校を維持する	法人	(A)福音を感じさせる施設・設備の整備を行う	ア)清潔感を向上させる、カトリック関連の物品を効果的に配置する イ)ドンボスコなどの図柄の専用郵便スタンプを作製する	学園の雰囲気福音が感じられること	マルゲリータガーデン及びマルゲリータルームの整備完了。 図案完成、封筒印刷・活用中。
		(B)カトリック精神の理解を深める	ア)朝礼で祈りを習慣化する、シスターによるお話の機会を設ける イ)カトリック学校事務職員研修会を企画・実施する	職員自身の意識と行動の変化	カトリック学校に勤める職員としての自覚と責任が培われている。 6月10日に関西地区のカトリック学校に参加いただいて実施し、他校出席者の一部から仕事のモチベーションアップにつながったとの感想をいただいた。
	幼稚園	(A)自然を大切にすることを豊かな感性を育む	季節感のある植栽管理と実りを感じさせる野菜栽培を行う	子どもたちの意識と行動の変化	様々な活動に追われがちになり、自然に目を向けるゆとりと関心が薄い。時期のよって野菜の苗を植えているが、その成長を観察したり、子どもへの働きかけが少なかった。
		(B)遊びの環境づくりを行う	教材研究を行うとともに、遊具を効果的に配置する	子どもたちの自発的な遊びの促進	教材研究を行い保育に取り入れることで、自由に活動する姿が見られた。
		(C)神を知り、祈りと感謝の心を育てる	宗教行事を充実させる	子どもたちの意識と行動の変化	宗教の話や行事の企画はされている。子どもの心を育てるための働きかけや、保育者自身の関心の薄さが課題である。
		(D)アシステンツァを実践する	愛情深く見守る	信頼関係の構築	いろいろな場所や活動の中で、教師の存在がある。本当の意味での愛情深い教育的な見守りには課題が残る。
	小学校	(A)ミッションスクールとしての意義をより強く認識する	司牧研修を活性化(宗教研修、ドン・ボスコ研修、1泊研修を実施する)	教員自身の意識と行動の変化	教員の温度差も少なく、ミッションスクールとしての存在感を出そうと努力できた。
		(B)ミッションスクールとしての特性を具現化する	宗教行事を充実させる	子どもたちの意識と行動の変化	行事ごとに振り返りを行い、改善が進められた。
		(C)保護者の理解度を向上させる	保護者対象勉強会(校長)を実施する	保護者各位の意識と行動の変化	保護者対象勉強会(校長)を実施してきた。
	中高	(A)キリスト教教育研修会を実施する	キリスト教教育研修会を実施する	教員自身の意識と行動の変化	研修会を実施し、キリスト教的な考え方やドン・ボスコの教育について教職員間で共有する機会をもった。聴くことと日々実践していることとの間に大きなギャップがないことは評価できる。
		(B)祈りを励行する	朝会、終会等、各会議の終了時に教員全員でお祈りを唱和する		毎朝の朝礼、会議前後に全員で祈りを唱和する慣習は重んじられている。
		(C)宗教行事を実施する	聖母祭ミサ、創立記念ミサ、卒業ミサ、練成会、クリスマス会、聖歌合唱コンクール等を実施する	子どもたちの意識と行動の変化	年間の宗教行事は教育的な側面からもよく準備し考えられた形で実施された。毎週水曜日の講堂朝礼では、各教員が生徒の心に響く、また教育的にもバランスの取れた講話が行われた。
2.「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する	法人	(A)全学一体的な訓練を実施し社会にPRする	警察官を講師として不審者対応訓練を実施する	効果的な訓練の実施と安全イメージの波及	8月24日に全教職員参加による防災・防犯セミナーを実施でき、またその活動に対して大阪府の補助金を増額できた。
		(B)全学的な安全対策を実施する	ア)危機管理マニュアルを見直す イ)防災備蓄品を充実させる	マニュアルの完成と全学的な周知徹底 備蓄品を過不足なく備えること	危機管理セミナーに出席する等で見直しに関する参考情報を収集。マニュアルを実地に即したものとするためには、日頃の訓練とセットで整備する必要があることが分かった。 全園児・児童・生徒分を準備した。
	幼稚園	安全教育を実施する	ア)消防署員を講師として防災訓練を実施する	子どもたちが自分で身を守る意識の醸成	実際に消防士の話聞き、消防車を見たり、煙の体験をしたりしたことで、子どもにとってよい刺激となった。
			イ)危険な場所や危険な遊び方を知り、安全に気をつけて遊ぶ力を培う		日々の活動の中で、危険な場所、遊び方に気付かせることで、子ども自身が自分で気付くとともに、友達に伝える姿が見られた。
			ウ)施設設備の安全管理を徹底する	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化	施設、遊具の点検日を決めて取り組むことで、安全面を意識して周りに目を向けて過ごすことができた。
	小学校	(A)各学年にふさわしい安全教育を実施する	学年別各種教室を実施する		学年別各種教室を実施できた。
		(B)施設設備面の安全管理を徹底する	安全点検の実施と児童に対する周知を徹底する	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化	定期的に安全点検を実施、かつ児童に対し危険箇所への立ち入り禁止の周知徹底を図ることができた。また修理・営繕・安全対策などの申請を速やかに行った。
		(C)避難訓練を実施する	避難訓練を年4回実施する		避難訓練を年4回実施した。
	中高	(A)安全のための訓練を実施する	ア)不審者対応訓練を実施する イ)災害避難訓練を実施する	子どもたちと教員自身の意識と行動の変化	全校種防犯研修会以降、中高としての具体的な訓練や対応策の検討に至らなかった。 全校安全委員会の企画のもとで、全校種防災研修会を生かした避難訓練を行った。今後、より具体的な想定をしながら訓練を企画実施する必要がある。
		(B)危機管理に関する情報を共有する	HPに情報を掲示する、ミマモルメ(一斉メールサービス)を活用する	必要な情報が共有されること	HPやミマモルメを活用した情報発信は、これまでよりも高い頻度でより迅速になされるようになったが、「誰が、いつ、何を」発信するのかということについて、ある程度の取り決めを行う必要がある。

3.『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する	法人	(A)在籍教職員の資質を向上させる	カトリック学校事務職員研修会を企画・実施する(前出(1-B-1))	(前出)	(前出)
		(B)新規入職者の資質を向上させる	適性を備えた人材の採用方法を検討する	学園の採用方法を確立すること	人材を学校、人材派遣会社、その他多方面から求めたうえ、面接以外に筆記試験等も加えて選考を実施した。
	幼稚園	(A)基本的な生活習慣を確立する	挨拶、身の回りの始末、返事、廊下は歩くなどの基本が当たり前になる	子どもたちの意識と行動の変化	基本的な生活習慣を身につけられるように指導を行ったが、個人差が多く見られた。
		(B)各種研修を実施する	各種研修を実施する	研修の実施と各教員の習得、実践	実技指導を受け、保育に活かすことは出来ているが、教師の精神性の向上には課題が残る。
	小学校	(A)教職員研修を実施する	ア)「いじめ問題」に関する研修を実施する	いじめを見逃さず適切に対処すること	弁護士を招いての研修を実施。いじめは許さないとの意識を持ち、教員が常にアンテナを張り巡らせた。
			イ)新任研修会を実施する	建学の精神と本校の教育について理解すること	時間的な制約のある中で実施した。校長、教頭だけに限らず、多くの先生方が積極的に関わった。
		(B)児童に関する情報交換を実施する	日常的に情報交換を行う	全児童の情報を全教員が認識していること	アンケートに調査を学期毎に行った。
	中高	各種研修を実施する	ア)「担任力」「授業力アップ」等、教育力向上のための研修を実施する	各教員の教育力向上と実践への反映	各教員が教科、進路指導関係のいずれかの研修会、説明会に参加し、それぞれの指導の内容やあり方、授業のひと工夫として反映させている。今後、さらに意識を高めていきたい。
			イ)マナー研修を実施する	各教員の接遇力向上と実践への反映	教員研修としては実施せず。生徒の講習には教員も一緒に受講しているとはいえ、教員としてのマナー、心遣いを向上させ、生徒の指導にあたるため、次年度はぜひ取り入れたい。
			ウ)人権教育教員研修会を実施する(内容によってはフィールドワークも含む)	各教員の人権意識向上と実践への反映	生徒の人権週間のテーマに合わせて教員研修を実施した。研修テーマ「持続可能な消費～消費者の権利と責任」講師:小吹岳志氏
4.校種間連携を強化する	法人	(A)ホームページを充実させる	教職員用申請書類ダウンロードバナーを作成する	申請書類にかかる効率化	ITの管理体制強化の一環として、2017年度からSE経験者を事務職員として採用した。
		(B)全学的施策を実施する	グラウンド人工芝化を円滑に実施する	グラウンド稼働率の向上	グラウンドの人工芝化は消滅したが、グラウンドの適切な整備は実施していく。
		(C)JATを充実させる	JATの参加人数増に向けた企画を立案する	JAT参加人数の増加	小中連携体制の中でのJATの位置づけが不十分であった。
	幼稚園	(A)全校種合同研修会を実施する	合同研修会を実施する	全校種の教員の関係性構築	実行に移すことができなかった。
		(B)幼稚園と小児童の交流会を実施する	交流会を実施する	交流会の実施と幼小教員の連携意識向上	年間行事に企画されている事は行う事が出来たが、時期的な面では、交流の難しさを感じた。
	小学校	(A)全校種合同研修会を実施する	合同研修会を実施する	全校種の教員の関係性構築	夏期に合同研修会を実施できた。
		(B)幼稚園と小児童の交流会を実施する	交流会を実施する	交流会の実施と幼小教員の連携意識向上	3学期に実施を計画したが、インフルエンザによる学級閉鎖により計画通りの実施ができず残念である。
		(C)小と中高の教員による授業研究を実施し交流を図る	授業見学とそれを踏まえての意見交換会を実施する	授業見学会の実施と小中高教員の連携意識向上	時程の違いが実施の妨げとなり課題が残った。
	中高	(A)全校種合同研修会を実施する	合同研修会を実施する	全校種の教員の関係性構築	法人統括室主催の防犯・防災研修会に参加。研修会への姿勢はもちろんのこと、日常的にも学園の横のつながりを作っていく必要がある。
		(B)城星学園小学校対象オープンスクールを実施する	城星学園小学校対象オープンスクールを実施する	オープンスクールの実施と内部進学希望者の増加	入試広報室による工夫を凝らした企画によって、内部生対象のオープンスクール等を実施した。
		(C)小と中高の教員による授業研究を実施し交流を図る	授業見学とそれを踏まえての意見交換会を実施する	授業見学会の実施と小中高教員の連携意識向上	数学科で2回授業参観を実施。小中一貫が進む中、本学園でも教科別につながりをもつことが課題である。

5.自然に挨拶 が交わせる学 園にする	法人	(A)Off-JTにより挨拶を徹底する	入職時オリエンテーションで挨拶の大切さをレクチャーする	誰に対しても気持ちよい挨拶が常に行われていること	新入職員のオリエンテーションでマリア像前での祈りや挨拶の励行を指導。事務部門内では挨拶は励行されているが、他部署の教職員とは個々のパーソナリティに絡んで、濃淡がある。
		(B)全学的施策を企画する	挨拶励行のためのスローガンを作成し啓発する		自然に挨拶の交わせる学園の雰囲気づくりと教職員への意識づけについて、さらに深掘したうえで実施したい。
	幼稚園	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で挨拶を励行する	本校職員としての意識をお互いに注意喚起	教師間で、明るく挨拶をかわすことには努力が必要だと感じた。
		(B)園児に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す	親しみをもって交わり、保育者自身が手本となる	「清い心・明るい子ども」喜びにあふれ、生き生きとした生活	明るく元気に挨拶をする事ができている。
	小学校	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で挨拶を励行する	本校職員としての意識をお互いに注意喚起	教職員間で挨拶は、随分盛んに行われるようになった。
		(B)児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す	児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す	良き社会人育成の「鏡」となること	少しずつ良い傾向に向かっていると感じられるようになってきた。
		(C)保護者に対し啓蒙を行う	母親教室で啓蒙を行う	良き社会人育成の「鏡」となること	1年生以外の保護者に対しても、実施してほしいとの声も上がっている。
	中高	(A)教職員間で挨拶を励行する	教職員間で挨拶を励行する	本校職員としての意識をお互いに注意喚起	中高内部の教職員間での挨拶は以前よりしっかり声を出して行われている。また、他校種や守衛、清掃の方々にも、意識して挨拶を交わしており、意識は高くなっている。
		(B)生徒に対し挨拶を励行する	生徒に対し挨拶を励行する	良き社会人育成の「鏡」となること	生徒の様子も見ながら挨拶、声かけをしている。
(C)来校者に対し挨拶を励行する		来校者に対し挨拶を励行する	全ての教員が本校の「顔」であることを意識する	外部業者や他校種の保護者などに対する挨拶は控えめである。学園に来られる方へのもてなしや労いの心を、もっと表現していくことを目指したい。	
6.教育計画	幼稚園	予防教育法をなお一層研究し実践する	「オラトリオの心」園内研修の課題として、ドンボスコの心を知り、深める	研究成果をレポートにまとめ発表 日常生活に活用	サレジアンカラーについてグループでの話し合いを通して、課題を見出すことができた。
	小学校	アシステンツァを励行する	「いつでもどこでも子どもと共に」の実践を図る(計画詳細は別紙)	教育成果の向上	アシステンツァと校務との両立の難しさを感じた。
	中高	15改革を具現化する	(計画詳細は別紙)	教育成果の向上	生徒個々のもつ課題と向き合いながら、中学、高校それぞれ、改編した部分での前向きな変化を見ている。
7.募集計画	幼稚園	「体験ひろば」の遊びの充実と保護者への啓蒙を行う	体験ひろばからの応募者数を増やす	(数値目標別途設定)	入試に関して、特に判定の時に、ゆとりが不足していたのが反省点である。
	小学校	学校の魅力を発信する	媒体の更なる活用を図る(計画詳細は別紙)	(数値目標別途設定)	私立小学校展への参加で、相談者の様子で手応えを感じた。
	中高	教育方針・教育内容に関する資料集を作成し各種媒体により発信する	(計画詳細は別紙)	(数値目標別途設定)	内部進学者の増加を図る必要がある一方、中高一貫校公立受験者の受験生確保は今年の特徴である。

施設設備計画（報告）

教育環境整備の一環として、次の工事等を実施した。

工事・設備等名称		整備目的	工事業者	執行日	予定金額(円)	執行金額(円)
①	グラウンド人工芝・テニスコート改修	テニスコートの地盤改修	住友ゴム	8月	21,600,000	21,600,000
②	受変電設備の更新	キュービクル型の設備に変更し、安全性向上	竹中工務店	8月	18,339,200	18,339,200
③	高校棟2Fルーフバルコニーの整備	憩い場づくり	竹中工務店	3～4月	8,850,000	8,850,000
④	本館空調更新	経年劣化に伴う更新	玉尾ショップ	8月	34,560,000	34,830,000
⑤	本館4F東側トイレ改修	女子用トイレを追加	竹中工務店	8月	22,680,000	22,680,000
⑥	非常放送設備更新	緊急時安全確保の充実	日東電機	8月	14,698,800	14,698,800
⑦	中・高コンピューター室更新	機種更新により授業の効率化を図る	FJM	8月	22,140,000	22,140,000
⑧	高校棟2F理科室の改修	食堂兼多目的室・自販機置場に変更	竹中工務店	8月	24,300,000	24,300,000
⑨	講堂1F書道教室の改修	理科室（生物・物理）に用途変更	竹中工務店	8月	13,154,400	13,154,400
計					180,322,400	180,592,400

財務状況（報告）

中高生徒数が回復せず、事業活動収支は改善できていない。大阪星光学院との連携協力、学園再生戦略等により中高生の生徒数を増やすことで収支の改善を目指していく。

人件費比率については、高額給与所得者の退職等の影響により一時的に改善しているが、平成29年度以降に、若手教員を中心に待遇改善がはかれるため、人件費比率は再び上昇に転じる。長期的には、上記の生徒数増による収支の改善により、人件費比率のバランスをとっていききたい。

生徒数と事業活動収支（平成24～28年度）

